

広報 なかわだ 第335号

6月の予定

三位一体の主日、委員会	6月 3日
堅信式、終了後祝賀会	6月 10日
ヨゼフ会例会	6月 17日

委員会だより

△5月6日(日) 10名出席▽
■小林主任司祭あいさつ

*4月10日中和田着任にあたって、ご協力ありがとうございました。

*まだ僅かですが段々分かってきました。今後とも宜しくお願いします。

■連絡事項・行事計画
*6月10日(日) 堅信式 9時より

■審議事項
(1) 堅信式の準備

*受堅者
◆7名。小林神父・宣教グループで教育中。

*ミサと堅信式
◆ミサは主日ミサと典礼・堅信式は「堅信式のしおり」にて行う予定です。

■各グループ連絡・報告事項
(1) 営繕G・聖堂内装整備工事

*4月25日(水) 聖堂内装整備工事 全て完了。

(2) 典礼G
◆聖体奉仕者研修

◆最終的に中谷田鶴・宮崎佐喜男・下村毅さんの3名にお願いします。

(3) 財務G
◆聖堂内装整備工事関連財務報告

◆ガス器具取替・絨毯クリーニン グ・聖堂天井補修・電気工事等 188,500円支出しました。

◆工事毎の資産計上・経費処理等は 来月委員会に報告します。

*「月定献金に関する呼びかけ」は 来月委員会に提案します。

*予算の見直し
◆主任司祭常駐されたので、必要経



費など一部を見直し来月委員会に 提案します。

(4) 行事G
◆復活祭パーティー報告

*復活祭パーティー報告
◆持ち寄りを含め昨年と同様な内容 で、できました。ありがとうございました。

*復活祭パーティーの反省
◆今後は、子供席のほかに、シルバ ー席を設け椅子を並べたほうが良い と思われる。

☆(委員会結果) 今後皆で検討し て行くことにします。

◆おにぎりの炊き上げのため、電気 釜をもう一台欲しい。

☆(委員会結果) 小さい電気釜の 使用状況を見極め検討して行く ことにします。

(5) 宣教・要理G
◆一粒会大会(10月8日聖園女学院) に向けて第五地区で検討中ですが、 子供関係の行事も打ち合わせを行 い準備中です。

*宣教グループを公募する予定です。 福祉G

(6) 福祉G
◆現状では(情報)

*「ゆりの会」16名で聖母の園のシー ツ取替を実施している。

◆白百合ベビーホームで洗濯物たた みのお手伝いをしているグループ がある。

*これらのグループに意見をお聞き しながら、神父様のご指導を頂き 福祉グループを検討していきたい。

(7) 事務G
◆門扉横「案内板」が空白の時もあ ります。宣教関係で必要なものが あれば掲示ください。

新たな宣教司牧評議会について

主任司祭 小林 陽一



2007年4月8日、横浜司教区教区長ラファエル梅村司教様は、司教教書『共同宣教司牧に向けた、新たな宣教司牧評議会と地区共同宣教司牧委員会』を発表されました。この発表に至る前、次のような経過を経て、この度の発表となりました。

2006年5月13日、長野県の「御聖体の宣教クララ修道会」軽井沢修道院にて、第14回横浜教区宣教司牧評議会総会が開催されました。この総会では、これからの宣教司牧評議会のあり方について、本来の目的をより豊に実現していくものにする為にはどうしたら良いか、組織構成や委員選出方法について話し合われました。5月14日までの会期の間、何度も話し合い、司教様に答申をいたしましたとのこと。司教様は、その総会の中で、司教講評として次のように言っておられます。

「宣教司牧評議会は、来年、設置から20年目を迎えます。その前に先ほど述べた三つの問題点の解決を図りたいと思っています。地区福音宣教委員会も共同宣教司牧という視点で見直されます。宣教司牧評議会も同様です。…省略…地区福音宣教委員会と宣教司牧評議会のあり方については司祭評議会にも諮問しました。宣教司牧評議会の答申と司祭評議会の答申とを吟味し、今年度中に解決を図り、来年(2007年)4月から新しい組織、新しいメンバーで宣教司牧評議会を立ち上げたいと考えています」。(「カトリック横浜教区報」第53号の2ページを参照ください)

この度の司教教書によれば、新たな宣教司牧評議会は、
・宣教司牧についての教区長の諮問に答える役目が第一
・教区懇談会を主催することが第二の役割

であります。宣教司牧評議会は、信徒の評議員は5名、修道者の評議員は2名、司祭の評議員は1名、そして司教総代理、教区長が入り、構成メンバーは合わせて10名とします、とのこと。教区懇談会のメンバー構成は、各地区の事情に応じて共同宣教司牧委員会の代表者2~3名、そして宣教司牧評議会の全評議員とします、とのこと。地区共同宣教司牧委員会は、地区レベルでの共同宣教司牧を推進することが、その目的となります。取り組む作業のひとつは、地区の将来を見据えたヴィジョンを描くこと、「交わりとしての教会をめざして」歩んでいる横浜教区にあって、地区の目指すべき方向性や展望の内容を教区長に提示することが望まれています。

地区共同宣教司牧委員会が地区のヴィジョンを作るときに、地区としての優先課題を検討すること。小教区としても、また地区としても、自らの力によって信仰を伝え、祈りをささげ、人々に愛を注いでいけるような共同体に成長することが期待されています。

各地区に
①祈る力を育てる部門
②信仰を伝える力を育てる部門
③神の愛を証しする力を育てる部門

を設けて下さい、とのこと。これらに取り組んで共同体づくりをすすめることが望まれています。この度の司教教書の内容は、ここに挙げたこと以外にも大事な内容が多々あります。お手元に司教教書が届けられましたら、目を通していただき、話し合っ、これからの活動に生かしていただけてますことを願っています。

07年5月委員会後記 小野委員長

■既に案内の通り、6月10日に梅村昌弘司教様が中和田教会に来訪され、堅信式が挙行されます。中和田教会に司教様が来られるのは2007年以来7年ぶりのことです。今回は合計7名の中学生、高校生、高の記念すべき堅信ミサに多くの信徒の皆様が参加され、祝賀の輪に加わって頂きたく思います。宜しくお願ひ申し上げます。

■小林神父様が巻頭言で書いておられる通り、共同宣教司牧に向けた新たな方向、並びに取り組みを示す司教教書『共同宣教司牧に向けた新たな宣教司牧評議会と地区共同宣教司牧委員会』が発表されました。この教書を基として、小林神父様を中心に活発な議論そして活動を盛り上げていきたいと思います。是非お読み下さい。キーワードは「交わり」です。

■5月3日に清泉小学校講堂で挙行された濱田壮久師(逗子教会出身)の司祭叙階式に、小林神父様はじめ中和田教会の多くの信徒の皆さんと共に参列して来ました。(濱田師には、中和田教会も夏期学校を通して大変お世話になってます。)200人が入れる講堂に溢れそうなくらい多くの人々が参列し、その参列者の祝意が講堂中に満ち満ちた、荘厳な中にも喜びに溢れた素晴らしい叙階式でした。実際、一人の司祭の誕生に、ご自身はもとより如何に多くの人々の祈りと献身が結果されているかを率直に感じることが出来ました。素晴らしい体験が出来たことを感謝します。

カトリック入門講座のご案内

「あなたはありのままですばらしい!」

これこそ神様が私たちに伝えてくださったメッセージです。この神様に出会い、その豊かさを享受できる自分へと成長するために、神を問う姿勢ではなく、神から問われる姿勢で自らと出会い、人と出会いながら自らと出会い、感性の豊かさを取り戻し、神様からいただいた自分のすべてを大切なものとして意識し、その上でイエスと出会い、イエスを中心に置く共同体の中で生きる喜びに満たされていく。この道筋を共に歩んでみませんか? 求道者の方も信者の方もどうぞ。

■日時: 第2、第4土曜日(月2回) 10時~12時

■会場: 中和田教会・新集會室

■お申し込み、お問い合せ: 小林神父 (045-803-6141) または 岩崎 (045-801-9335)



「キリスト教入門講座指導者養成コース」に参加して

阿部 映子



昨年「キリスト教入門講座指導者養成コース」に参加いたしました。講師は逗子教会主任の小笠原神父様でした。上智大学でも神学部の講師をしておられます。参加メンバーは16名（内男性5名）でした。

学生生活に戻ったような、神父様の無駄のない、理解しやすい講義を1時間たっぷり受け、その後3クラスに分かれての話し合い（分かち合い）を1時間、あとの30分は各クラスより話し合ったことの報告や質問、というかたちで10回の講義を受けました。

いちばん苦労したのは、毎回、前回の講義をまとめ、自分の考えも入れてレポートを提出することでした。提出の前日によくまとめ上げ、間に合っただけでホッとしたことが度々でした。しかし、自分の信仰について考え直すすばらしい恵みを与えられたことは事実です。もう一度講義の内容を読み直したり、調べ直したりしながら、聖書の言葉を理解して、イエス・キリストとの出会いを確かめていく、そんな一年間でした。どうぞ皆様も率先して参加なさることをお勧めいたします。

ここに10回の中の一部を報告させていただきます。

《キリストの教会とは》

教会とは祈りの場、活動の場、そして共同体としてみなと一緒に行動し、奉仕する場、こんな考えしかなかったように思います。自分の信仰さえしっかり持っていれば・・・などと思っていました。自分の考えで行動するのであって、神の賜物によって与えられたとは思っていませんでした。

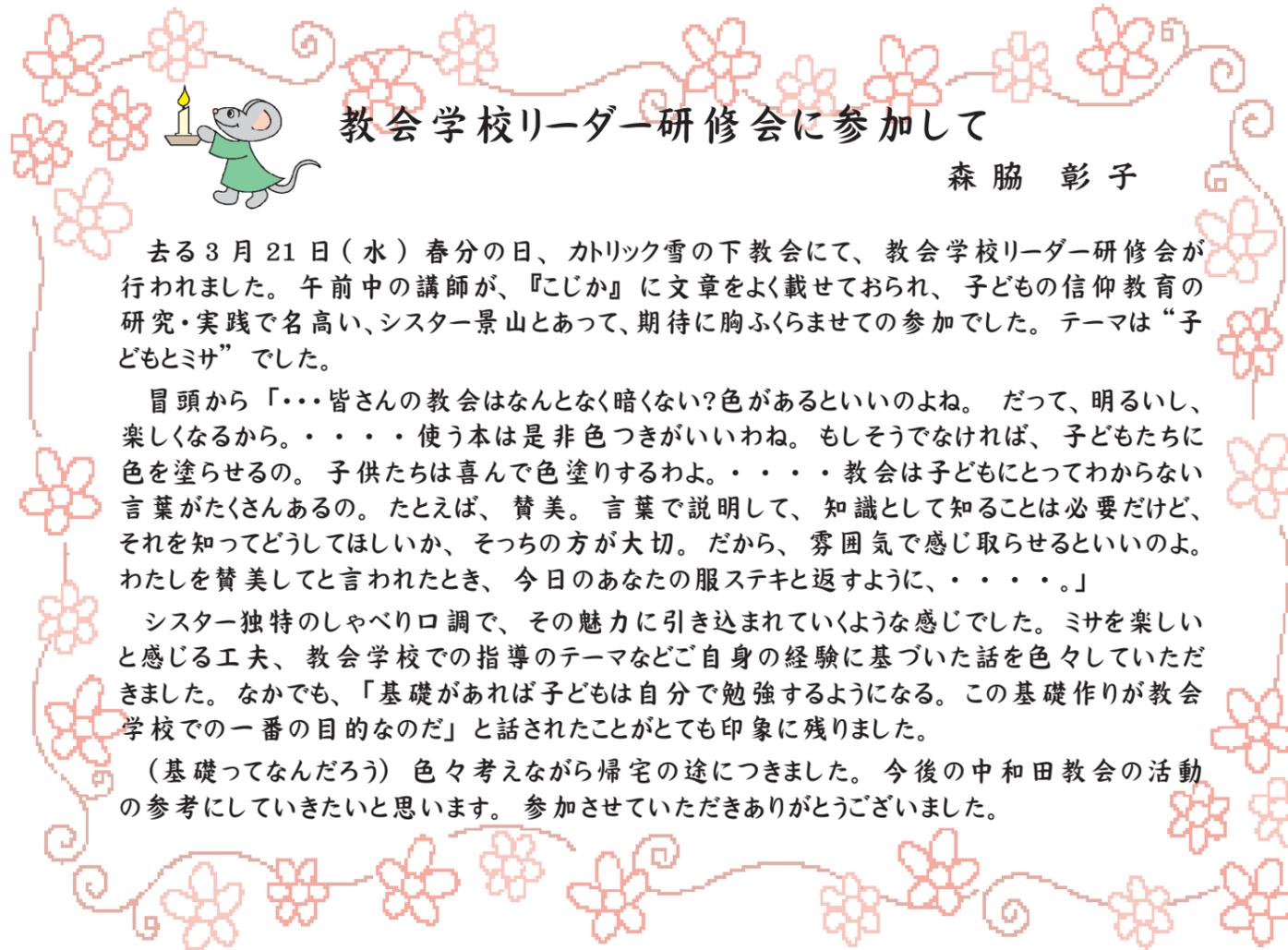
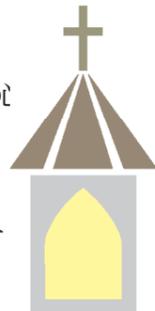
コリントの教会への手紙の中に、「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべてのことをなさるのは同じ神です」（12：4～6）「これらすべてのことは同じ唯一の霊の働きであって、霊は望むままにそれを一人ひとりに分け与えてくださるのです」（12：11）とあります。

教会の頭はキリストであり、キリストにつながって教会の完成をめざしていかなければ成長し続けることはありません。皆が勝手なことを言わず、仲違いせず、心をひとつにし、思いをひとつにして固く結び合わなければなりません。しかし、人間は弱い者ですから、自分を正当化し、神を見失うことがあります。それを神に癒していただくために、罪を告白し合い、互いのために祈ることが必要です。だれかが、その人を真の道へ連れ戻し、神の救いの恵みを受けるように祈り導くことが必要です。そこに教会共同体の使命があるのです。

教会の中で、これが神を信じる人々の集まりなのかと愕然とすることがあります。自分もその中の一人だが、自分だけが正しいという思いが強すぎ、その思いだけで判断してしまいます。相手がどんな考えで、またどんな行動からこのような意見、また行動をとったのかという課程を考えず、結果だけで判断することが多いようです。「人生は結果ではなく課程です。」とある高僧が新聞に書いていました。心に響く言葉でした。

悲しみや苦しみにあった時、心の中に自分を支えてくれる存在が必要となります。それが信仰につながります。自分が救われたいという思いが、だんだんと‘今ここにいる’ことの幸せに変化していき、生きていることの喜びに変化していき、そこに信仰があります。

自分自身でも、苦しいとき、悲しいとき、悩んでいるときに神に助けを求めています。分にとっては小さな十字架を背負っているのです。しかし、なんの前触れもなしに突然心が解け、喜びに変わる瞬間があります。このとき小さな復活だと気付くのです。ここまでの道のりが遠いほど、喜びは大きく、感謝の心が生まれます。この体験を分かち合いたいと思うとき、教会があります。みなそれぞれに神の愛をいただいて生きているのですから、その神の働きかけに気づき続けられるように、積極的に生きていきたいと思っています。



教会学校リーダー研修会に参加して

森脇 彰子

去る3月21日（水）春分の日、カリック雪の下教会にて、教会学校リーダー研修会が行われました。午前中の講師が、『こじか』に文章をよく載せておられ、子どもの信仰教育の研究・実践で名高い、シスター景山とあって、期待に胸ふくらませての参加でした。テーマは“子どもとミサ”でした。

冒頭から「・・・皆さんの教会はなんとなく暗くない？色があるといいのよね。だって、明るいし、楽しくなるから。・・・使う本は是非色つきがいいわね。もしそうでなければ、子どもたちに色を塗らせるの。子供たちは喜んで色塗りするわよ。・・・教会は子どもにとってわからない言葉がたくさんあるの。たとえば、賛美。言葉で説明して、知識として知ること必要だけど、それを知ってどうしてほしいか、そっちの方が大切。だから、雰囲気を感じ取らせるといいのよ。わたしを賛美してと言われたとき、今日のあなたの服ステキと返すように、・・・。」

シスター独特のしゃべり口調で、その魅力に引き込まれていくような感じでした。ミサを楽しみと感じる工夫、教会学校での指導のテーマなどご自身の経験に基づいた話を色々していただきました。なかでも、「基礎があれば子どもは自分で勉強するようになる。この基礎作りが教会学校での一番の目的なのだ」と話されたことがとても印象に残りました。

（基礎ってなんだろう）色々考えながら帰宅の途につきました。今後の中和田教会の活動の参考にしていきたいと思っています。参加させていただきありがとうございました。

おめでとうございます！

濱田 壮久師（逗子教会出身）司祭叙階式

2007年5月3日 清泉小学校講堂

（濱田師には、中和田教会も夏期学校等で大変お世話になっています。）

